

## ■阿南市洪水ハザードマップ (想定最大規模)について

### ➤ 防災マップ

(洪水ハザードマップ)

(令和3年9月作成)

(令和4年度5,000部印刷し配布)

印刷物については、公民館等の  
窓口で配布している。



ドローン 物資運搬訓練 飛行前



ドローン 物資運搬訓練 飛行中

## ■総合防災訓練について

加茂谷中学校において、10  
月23日総合防災訓練を実施

想定災害:南海トラフ地震に  
よる災害が発生した時に大  
雨による洪水が発生した複  
合災害を想定。



バス 広域避難訓練



土嚢 釜段工法漏水対策訓練

## ■ 排水機場ポンプ操作訓練 新中村川排水機場



年間を通し職員研修として、定期的に排水機場のポンプ操作訓練を行っている。大雨・台風襲来時等において、町職員により町内巡回及び3ヶ所のウェブカメラにより町内河川の監視や低地等の浸水状況の警戒にあたっている。また、必要に応じて排水作業等を実施している。



## ■ 日和佐川洪水ハザードマップの作成・配布

想定最大規模の洪水浸水想定図を作成し、浸水想定区域内の全戸、全施設等に配布。美波町ホームページにも掲載し、広く周知している。

## ■ 雨水ポンプ場・バイパス水路の整備

近年多発しているゲリラ豪雨等の影響により、市街地では、たびたび浸水被害に見舞われているため、水路流末に雨水ポンプを分散して整備している。

また、バイパス水路の新設・改良工事を進め、浸水被害の軽減に計画的に取り組んでいる。

## ■ 水防倉庫の移転(整備)

県道日和佐小野線恵比須浜パイパスの新設に伴い、北河内消防車庫及び水防倉庫を移転(整備)している。

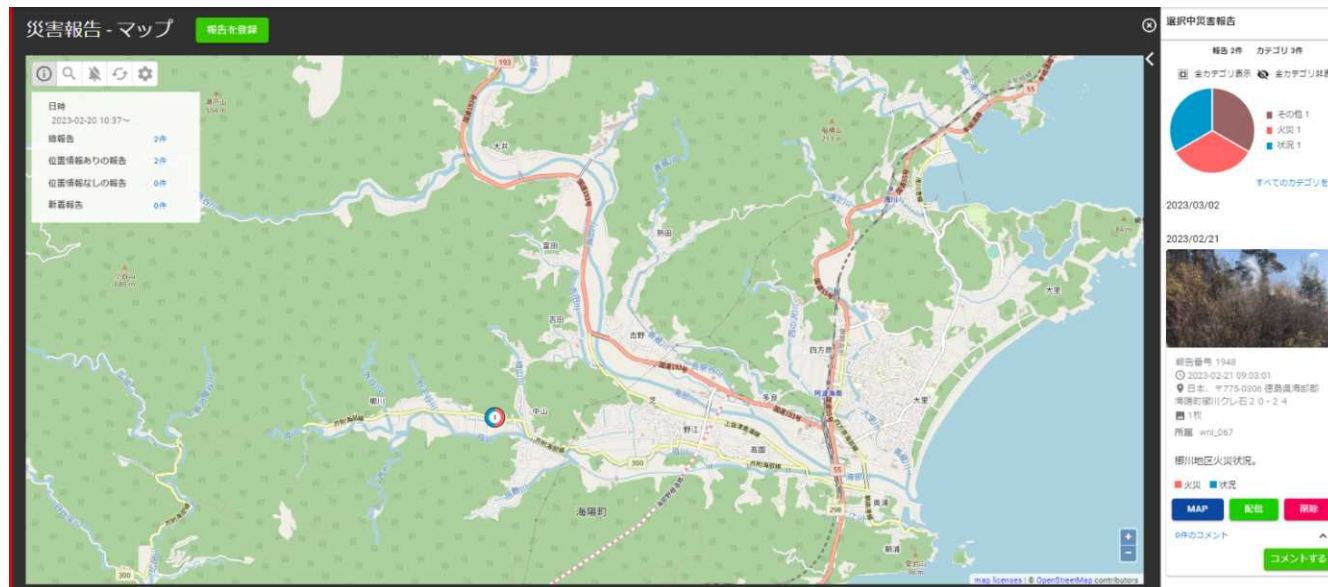
土嚢、止水板、杭、番線、トラロープ、ブルーシート、スコップ、カケヤ、ハンマー等を備蓄し、水害に備えている。



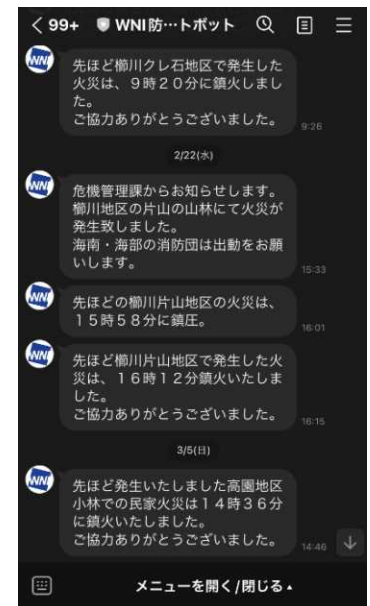
## WNI防災チャットボットの運用について

海陽町では、台風や集中豪雨、火災などの災害時に迅速な情報共有を行うため、海陽町消防団、海陽町役場職員、社会福祉協議会職員を対象にLINEを活用したシステムを運用しております。このシステムは、海陽町役場から情報を発信したり、アカウント登録者から災害状況を発信したりすることができるものです。また、発信された災害情報を自動で抽出、集約し、発信されている災害の割合を種類別に把握することができます。今まではメールに火災の発生を発信するシステムのみでの運用でしたが、多様な災害に対応できるように運用を開始いたしました。

災害報告-マップ画面



LINE-情報受信画面



# 令和4(2022)年度の市町村支援について

徳島地方気象台

## 平時の取組み

- 気象台長と市町村長との「顔の見える関係」を構築
  - 出水期前に県内全24市町村長との懇談を実施
  - 大規模氾濫減災協議会及び流域治水協議会などへも参画し、連携を強化
- 「地域防災計画」、「水防計画」等への助言・見直しを支援
  - 県、市町村の「地域防災計画」、「水防計画」、「防災対応マニュアル」等への見直しを支援
  - 「洪水タイムライン」へ助言・見直しを支援
- 防災気象情報の理解・活用のための研修・訓練・イベント等への協力
  - 各協議会及び勉強会で「新たに行う気象情報について」の解説を実施
  - 徳島県、県民局及び市町村での訓練及び防災イベント参加や講師派遣
  - 徳島県内、全24市町村の防災担当者を対象に、気象防災ワークショップを実施

首長訪問



防災訓練



防災イベント



## 緊急時の取組み

- 「ホットライン」や「気象台からのコメント」などにより、予報官が想定する危機感を伝達
  - 気象災害のおそれがあるときは、現象の切迫度や危険度に応じて、「気象台長」、「管理官（課長級）」、「専門職員（予報官など）」が各レベルでホットラインを実施
  - 台風第14号が接近する前に、台長からほぼ県内全市町村長へ、ホットラインを実施
  - 台風及び前線等の影響による大雨が予測される場合に、河川事務所が開催する危機感共有会議にて気象解説を実施
  - 台風第14号接近時には、気象台と県庁をP C常時接続で繋ぎ、リアルタイムで危機感を伝達する体制を試行
- 災害対応支援のため「気象防災対応支援チーム（JETT）」を派遣
  - 気象庁全体では令和5年1月16日時点で、22事例、延べ709人の職員をJETTとして派遣

## 災害後の取組み

- 市町村と「振り返り（聞き取り）」等を実施
  - 台風第11号、14号及び、12月23日～24日の大雪について、県・市町村の防災担当者へメールによるアンケートを実施
- 被災市町村に対して災害時気象支援を実施
  - 被災した市町村に対して、災害時気象支援資料を提供する



## 構成機関の取組状況

## ■ 流域住民や要配慮者利用施設対象の「避難の実効性向上」のための支援の実施

- ▶ 家族が安全に避難するための避難行動計画を時系列で整理する「ファミリータイムライン作成研修会」や、防災担当者を対象とした防災意識を高めるための「要配慮者利用施設のタイムライン作成研修会」を県下で実施
- ▶ 令和5年度の取組予定
  - ・「ファミリータイムライン作成研修会」を開催
  - ・「要配慮者利用施設のタイムライン作成研修会」を7月に美波町で開催予定



ファミリータイムライン資料



# 構成機関の取組状況

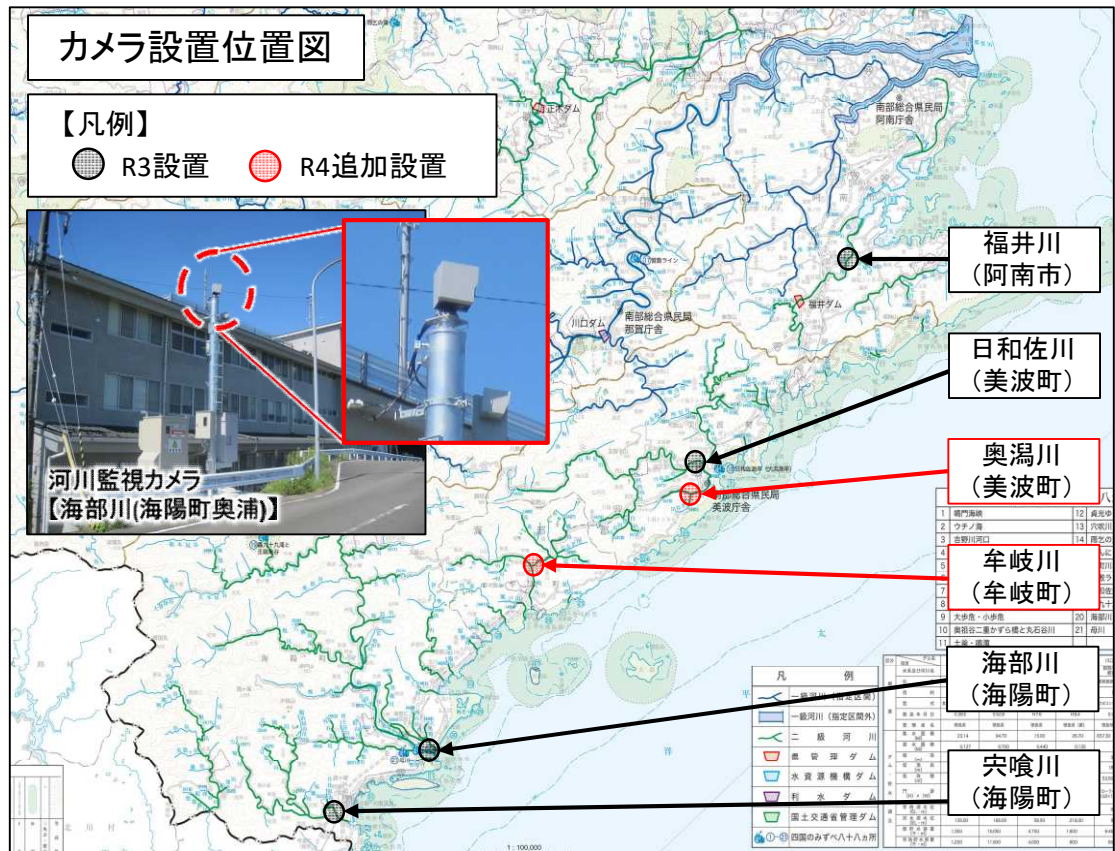
## 河川監視カメラの運用について（令和3年7月～）

### 令和4年度の取組

- ・南部圏域の二級河川では、2箇所設置し、全部で6河川6箇所に河川監視カメラを設置済（県下全域では、22河川28箇所に設置済）
- ・YouTubeを活用し、高解像度のリアルタイム映像を配信中

### 令和5年度の取組予定

- ・より切迫感の伝わる映像を提供できるよう工夫・検討（量水標の設置等）





## ■ 水害リスク情報空白域の解消に向けた取組について

- 浸水被害からの、逃げ遅れゼロを目指し、令和3年7月に水防法が改正

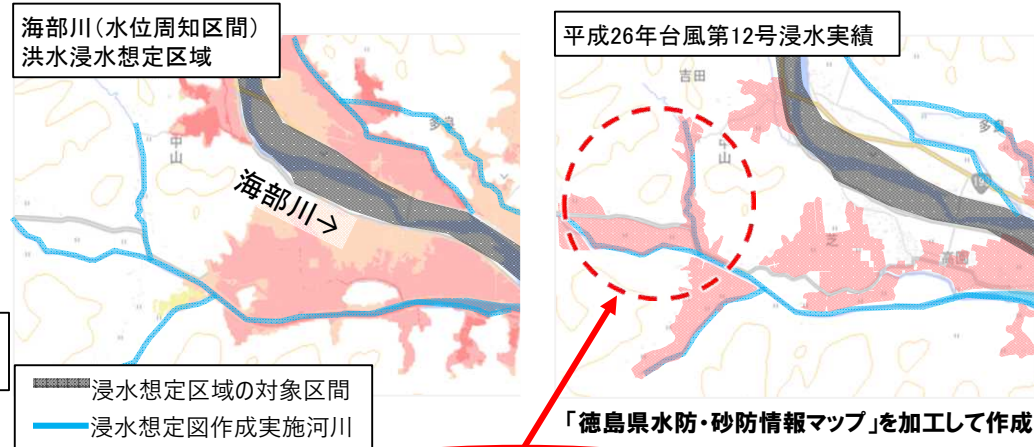


浸水想定区域の指定対象河川が拡大

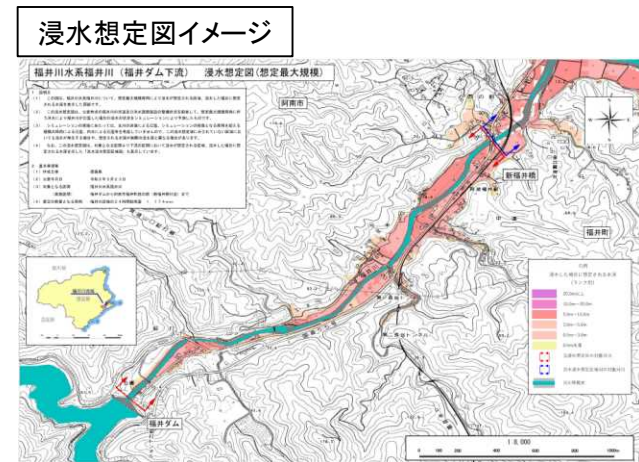
- 空白域のある488県管理河川を対象に、令和4年度までに、278河川について、浸水想定図の作成に着手



- 令和5年度、南部圏域では77河川について、浸水想定図の作成を進め、水害リスク情報空白域の解消に取り組む



水害リスク情報のない河川において浸水が発生



福井川(福井ダム下流) 浸水想定図 (想定最大規模)  
令和2年3月公表